

埼玉県のマスコット コバトン

埼玉県 獣医師会 会報

第 651 号

平成30年 1月20日編集

発行所
公益社団法人 埼玉県獣医師会
〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-340
(埼玉県農業共済会館内)
電話 048(645)1906
FAX 048(648)1865
E-mail : s-vma@vesta.ocn.ne.jp
URL : http://www.saitama-vma.org/
振替口座 00110-9-195954番

発行責任者 高橋 三男

編集責任者 大橋 邦啓

印刷所 (株)アサヒコミュニケーションズ

記事の内容

新年の御挨拶……………1
平成29年度埼玉県埼玉県家畜保健衛生業績
発表会開催報告……………3

予告

西支部学術講習会のお知らせ……………10
さいたま市支部学術講習会のお知らせ……………10
南支部学術講習会のお知らせ……………11

新入会員報告

新入会員紹介……………12

ひろば

南支部学術講習会開催報告……………12

お知らせ

獣医師法第8条第2項に該当する獣医師の
処分について……………13
牛に使用するガミスロマイシン製剤のリスク
管理措置について……………14
動物用医薬品等取締規則及び動物用医薬品及
び医薬品の使用の規制に関する省令の一部
を改正する省令の制定について……………16
コリネバクテリウム・ウルセランスによるジ
フテリア様症状を呈する感染症患者に関する
情報について……………16

香川県における高病原性鳥インフルエンザの
疑似患畜の確認に伴う監視体制の強化につ
いて……………18
高病原性鳥インフルエンザに関する正しい
知識の普及等について……………18
災害時ペット簡易避難ゲージについて……………19

切り抜きニュース

○飼い犬無登録で略式起訴……………21
○猫インフルNYで流行……………21
○14歳少年、狂犬病から生還……………21
○人獣共通「コリネバクテリウム・ウルセラ
ンス感染症」で国内初の死亡例……………21
○東京都内で発見のオオタカから高病原性鳥
インフル……………22
○鳥インフルエンザ 9万羽、県が焼却終了
ペール缶110トン、さぬき市内外で／香川
……………22

埼玉県獣医師会学術広報版……………23

事務局より

事務局メモ……………24

編集後記……………25

公益社団法人 埼玉県獣医師会 会員憲章

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は、それぞれの職域において、その責務を遂行し、県民の福祉増進に寄与するため、ここに会員憲章を定めま

す。

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は

1. 動物の生命を守り、ひとびとの生活を豊かにしよう
1. 獣医学術を研鑽向上し、確信を持って業務に邁進しよう
1. 動物愛護思想を向上し、心豊かな生活をしよう
1. 環境衛生を向上し、福祉増進の実をあげよう
1. 職域を尊重し、倫理の昂揚をはかろう



新年の御挨拶

公益社団法人 埼玉県獣医師会

会長 高橋 三男

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご健勝にて希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日ごろから本会の業務運営に対しまして、深い御理解と温かい御支援を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、去年は、1月に米国でトランプ大統領が就任、米国第一主義を宣言しました。安倍首相は9月に米国を訪問し、11月にはトランプ大統領が我が国を訪問しました。海外ではイスラム過激派のテロ事件により多くの死者が出ており、北朝鮮はミサイルの発射を繰り返しています。

国内では、10月には第48回衆議院議員選挙が行われました。また、昨シーズンは、北海道、青森県、新潟県、千葉県、岐阜県、佐賀県、熊本県、宮崎県で高病原性鳥インフルエンザが発生し、167万羽の家禽が殺処分されましたが、今シーズンは1月になって、香川県さぬき市で約9万羽が殺処分されています。さらに野鳥からの分離も続いており、東京都でもオオタカの死体からウイルスが分離されるなど、いづれどこで家禽での発生があってもおかしくない状況に変わりありません。

狂犬病につきましては、国内では徹底した予防注射により、人では昭和32年以降発生をみていませんが、世界中では、毎年約5万人もの死者を出しています。「人と動物の共通感染症」は、世界各地で発生が続いており、その流行防止対策が喫緊の課題となっております。さらに「食品の安全性確保」への関心も益々、高まってきており、人と動物の健康を担う医師と獣医師が「One Health」の概念に基づき、密接に連携し、安全で安心な社会を構築することが今こそ求められています。

このことは、埼玉県においても同様であり、埼玉県獣医師会と埼玉県医師会とが協定を締結した時の理念である「人と動物の健康は一つ。そして、それは地球の願い」との思いを抱いて、これまで

以上に医師と獣医師が緊密に連携して、課題解決に取り組んでいく必要があると実感いたしているところであります。

埼玉県獣医師会といたしましては、これまでも「今ある命を大切にし、また、無駄な命を増やさない」をモットーに、動物福祉・愛護への考え方の普及を図ってまいりました。これからも、より、人と動物が共存する豊かな社会の実現が図られるよう、一層努力してまいりたいと考えています。

我が国は、これから、少子高齢化が一段と進み人口が減少するとともに、国民の生活様式や価値観も大きく変化していくものと思われまます。また、高齢社会となって介護も増えてまいりますが、その一助として、動物との触れ合いも増えてくるものと思われまます。私は動物の役割がますます重要になってくるため、改めて人と動物が共存して、豊かな社会が築いていけるようにしていきたいと考えています。そのためにも、獣医師会と医師会とが連携して、人と動物の共通感染症から国民と動物を共に守り、双方が安心して暮らしていける社会にしていきたいまます。

私は、埼玉県獣医師会が公益団体として今後とも県民の期待に応えてまいりますため、引き続き、会員の皆様とともに、次の点に努力してまいりたいと考えております。

私たち埼玉県獣医師会は、

- 1 社会から期待され信頼される公益団体を目指すとともに、これまでの活動で培ってきた伝統を受け継ぎながら、新しい時代に向けた適切な会務運営に努めてまいります。
- 2 あらゆる機会を捉えて、獣医師及び獣医師会の果たす社会的使命や役割を広く情報発信するとともに、施策提言に努めてまいります。

また、「獣医師の誓い-95年宣言」、「埼玉県獣医師会員憲章」並びに「獣医師会活動指針」

に則り、会員の法令遵守と獣医師職業倫理の高揚を図ってまいります。

- 3 国や県、市町村、また、埼玉県医師会などの関係団体と緊密に連携し、食の安全確保対策の推進や狂犬病等の人と動物の共通感染症の予防対策に適切に対応してまいります。

また、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病については、発生予防、迅速な通報と初動防疫及び飼養管理基準の遵守等について、行政機関と連携して指導に努めてまいります。

- 4 人と動物が共存する豊かな地域社会の実現を目指して「埼玉県動物愛護管理推進計画」の着実な推進を支援してまいります。

また、命の尊さを通じ豊かな感性を育てる学校動物飼育活動や動物福祉の増進等の取組を推進してまいります。

- 5 「災害時における愛護動物の救護活動に関する覚書」に基づき、埼玉県と連携して具体的な救護体制の整備に取り組んでまいります。

また、傷病野生鳥獣の保護管理につきましては、埼玉県の進める保護対策事業を推進し、生物多様性の保全を図ってまいります。

- 6 学術講習会や交流会等を積極的に開催するとともに、各種学会への会員の参加を支援することで、知識、技術の高位平準化を図り、その成果を広く県民に還元してまいります。

さらに、日本獣医師会の「獣医師生涯研修事業」については、本会が全国トップクラスの実績を誇っておりますことから、引き続き、会員の参加を促進してまいります。

- 7 動物愛護フェスティバルや日本獣医師会主催の動物感謝デー等に積極的に参加し、獣医師会の果たす役割と会員の活動内容を広く県民に啓発してまいります。

私は、昨年9月に開催された全国獣医師会・会長会議において、日本獣医師会会長から、常設議長に再任指名され、過去2期に引き続き、議事を進行しました。地方会の会長からは、現場の有意義な質問や意見を引き出し、執行部には、適切な回答を求めて、その調整対応にあたり、円滑な運営に務めました。今後も日本獣医師会と地方獣医師会とが連帯感をもって諸事業を推進するとともに

に、これらの課題解決にあたっていけるよう努力していきたいと考えております。

また、多様化した変革の時代にあっては、埼玉県獣医師会は、動物や人の健康など、人々の生活に直結した幅広い分野で活躍されておられる会員の皆様を「主役」に、会員相互の「絆」を深めながら、組織としての総合力を発揮していくことが重要となってまいります。

私たちは、昨日より今日、今日より明日と、日々「進歩」しておりますが、これからの時代は、進歩だけでは社会の期待に応えていくことはできません。進歩しつつも、組織の中で大きく変革し「進化」していかなければなりません。

私は、これからも皆様とお互いに手を携え、常に「進歩と進化」を続け、組織のリーダーとして初心を忘れることなく、国や地方、県や市町村、更には政治や各種団体等、各界、各層と密接に連携を図りながら、「熟慮」、「決断」、「実行」をモットーに、新しい時代の潮流を見定め、期待される埼玉県獣医師会の構築のために全力で取り組んでまいります。

組織の舵取りを行っていくには「3つの目」が必要とされます。一つ目は、近づいて様々な角度から複眼的に物事を見る「虫の目」、二つ目は、高い位置から俯瞰的に全体を見回して物事を見直す「鳥の目」、そして、三つ目が、潮の流れを見る、つまり、時代の流れを読む「魚の目」です。私は、常にこの「3つの目」の視点を持って、今後とも会の運営に努力してまいりますので、皆様の一層の御支援をお願い致します。

今年は戌年です。戌という字は「草木が枯れる状態を表している」とされており、季節の変化を受け入れて休眠し、次に命の種と力を委ねるといった意味があるそうです。また、現在では、我々と縁が深い犬の字が充てられています。犬は社会性、協調性の強い動物です。今年は、埼玉県獣医師会会員が一丸となって力を蓄え、力強い芽吹きをして、一致団結して一層強固な獣医師会にしていく年になるものと思っております。

2月には、韓国で冬季オリンピックが開催されますが、これが紛争のない平和な世界のきっかけになることを願うとともに、本年が、会員の皆様にとりまして、希望に満ちて、健康で平和に過ごせる一年となりますことを心からお祈り申し上げ、私の新年の御挨拶とさせていただきます。

平成29年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会開催報告

平成29年12月22日（金）午前9時30分から、さいたま市の「埼玉会館7B会議室」において、平成29年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会が開催されました。

この発表会は、家畜衛生及び家畜管理技術の改善向上に資することを目的に埼玉県農林部が毎年度、開催しているもので、農林部の獣医・畜産関係職員や埼玉県獣医師会等の関係者61名が参加して、県関係機関が実施した事業や調査研究等に関する成果発表と活発な討議が行なわれました。

1 開会

発表会は、田中美貴畜産安全課主幹の司会で進行し、松澤 潤埼玉県食品安全局長の主催者挨拶に続き、助言講師及び来賓の方々が御紹介されました。助言講師は、一般財団法人 日本生物科学研究所の平 修製造部 次長、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門の川治聡子細菌・寄生虫研究領域 主任研究員、公益社団法人埼玉県獣医師会の高橋三男会長、熊谷家畜保健衛生所の宇田川浩一所長、農業技術研究センターの上野敏昭副所長の5名の先生方で、また、来賓として埼玉県獣医師会の中村滋副会長と小暮一雄副会長が出席いたしました。



助言講師の先生方

前列左から 高橋三男埼玉県獣医師会会長、川治聡子農業・食品産業技術総合研究機構主任研究員、平 修日本生物科学研究所製造部次長
後列左から 宇田川浩一熊谷家畜保健衛生所所長、上野敏昭農業技術研究センター副所長

2 発表・討議

発表は3部で構成され、第1部が「家畜保健衛生所の運営及び家畜保健衛生所の企画推進に関する業務」に関するもので8題の発表がありました。また、第2部の「家畜保健衛生所及び病性鑑定施設における家畜の保健衛生に関する試験及び調査成績」は8題、第3部の「家畜保健衛生所以外の畜産関係機関における試験、研究、調査成績」は2題であり、合計18演題が発表されました。

それぞれの発表終了後には、高橋会長をはじめとする各助言講師から、熱心な質問や助言があり、活発な討議が行なわれました。

3 審査結果発表

発表終了後、別室において助言講師による審査会が行われ、埼玉県代表と埼玉県獣医師会会長賞が選考されました。

審査会が開催されている間に発表会場では、埼玉県環境部みどり自然課の伊藤麗子主査を講師として「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応」と題した講演が行われました。

審査会終了後、助言講師を代表して平 修日本生物科学研究所製造部次長から、埼玉県代表として関東甲信越ブロック業績発表会で発表される演題の発表と講評がありました。



来賓として出席された埼玉県獣医師会の中村滋副会長(左)と小暮一雄副会長

埼玉県代表演題

第1部

陰性牛を倍増させた牛白血病抵抗性牛による清浄化対策（熊谷家畜保健衛生所 山中梨沙 ほか）

第2部

ふれあい牧場で発生した羊のロウバイ中毒疑い事例（中央家畜保健衛生所 春山優唯）

ヨーロッパ腐蝕病菌の特製を利用した分離手技の検討（中央家畜保健衛生所 中井悠華 ほか）

続いて、高橋三男埼玉県獣医師会会長が「今回は18題と多くの発表があり、時代の変化に対応した非常に意義深い内容のものであった。第1部では、全国的に問題となっている牛の白血病や豚の流行性下痢、オーエスキー病の清浄化対策などに熱心に取り組み、成果を上げたものが多く、第2部では、全国的にも珍しい症例についての発表もあった。さらに、第3部の秩父高原牧場と農業技術研究センターの発表は農場でも応用可能な技術であり、今後大きく役立つものと思う。

いずれも今回の発表で終わりにすることなく、ぜひ継続して進めていただき、その成果を再度発表していただきたい。」と挨拶を述べたあと、埼玉県獣医師会会長賞の受賞者を発表しました。

埼玉県獣医師会会長賞受賞演題

第1部

口蹄疫疑い事例通報時の病性鑑定担当初動体制の強化（中央家畜保健衛生所 平野晃司）

住民との直接対話による環境問題解消事例（熊谷家畜保健衛生所 石田扇子 ほか）

第2部

県内で検出された大きな欠損があるマレック病ウイルスmeg遺伝子（中央家畜保健衛生所 曾田泰史）

第3部

スミア及びVER値を用いた鈍性発情母豚活用技術の開発（農業技術研究センター 瀧沢慶太 ほか）

4 表彰及び閉会

審査結果の発表後、関東甲信越ブロック業績発表会への埼玉県代表に選出された3名には岩田信之畜産安全課長から、また、埼玉県獣医師会会長賞に選出された4名については、高橋三男会長、中村滋副会長及び小暮一雄副会長から表彰状が授与され、午後5時に閉会となりました。



埼玉県獣医師会会長賞の受賞者を囲んで

左から 小暮一雄副会長、受賞者の瀧沢慶太先生(農業技術研究センター)、平野晃司先生(中央家保)、高橋三男会長、受賞者の石田扇子先生(熊谷家保)、中村滋副会長、曾田泰史先生(中央家保)

《平成29年度関東甲信越ブロック家畜保健衛生業績発表会・埼玉県代表》

埼玉県代表3題の講演要旨は次のとおりです。

1 陰性率を倍増させた牛白血病抵抗性牛による清浄化対策

(熊谷家畜保健衛生所 山中 梨沙ほか)

管内2酪農家（A農家：繋ぎ80頭規模、B農家：繋ぎ60頭規模）において、昨年から理化学研究所と共同で牛白血病清浄化対策を実施した。

検査には、プロウイルス量（以下、PVL）を定量するリアルタイムPCR検査（BLV-CoCoMo-qPCR法）、牛白血病に対して感受性又は抵抗性を付与する「BoLA-DRB3対立遺伝子」を特定する遺伝子解析及びELISA抗体検査を用いた。PVL検出限界以下かつ抗体陰性の個体を「陰性牛」、PLV検出又はELISA抗体陽性どちらか一方でも陽性の個体を「陽性牛」と定義した。さらに陽性牛をリスクに応じて、抵抗性遺伝子を

有しPVL<104コピー/105細胞の個体を「抵抗性牛」、感受性遺伝子を有しPVL>104コピー/105細胞の個体を「感受性牛」、及び陽性牛のうち抵抗性牛及び感受性牛どちらにも定義されない個体を「感染牛」の3つの区分に分類した。

平成28年5月には、Aは陰性牛20頭(24.1%)、抵抗性牛12頭(14.5%)、感受性牛7頭(8.4%)、感染牛44頭(53.0%)であった。Bは陰性牛8頭(13.8%)、抵抗性牛8頭(13.8%)、感受性牛14頭(24.1%)、感染牛28頭(48.3%)であった。

この検査以降、両農家とも牛白血病ガイドラインに基づく対策に加え、他個体へのBLV伝播リスクが低い抵抗性牛を陰性牛と陽性牛の間に配置し、抵抗性牛を防壁として利用する新たな対策を実施した。その結果、平成29年10月には、Aは陰性牛41頭(50.0%)、抵抗性牛9頭(11.0%)、感受性牛8頭(9.8%)、感染牛24頭(29.3%)、Bは陰性牛23頭(37.7%)、抵抗性牛6頭(9.8%)、感受性牛8頭(13.1%)、感染牛24頭(39.3%)と、両農家とも清浄化が大きく進展した。

抵抗性牛の特定により、BLV陽性でありながらもBLV感染軽減を図ることが可能となった。抵抗性牛を活用した対策は、農家の経済的負担を抑えるだけでなく、清浄化へのモチベーション維持にも大きな効果があった。今後も畜主と密な連携を図り、清浄化達成に向けて指導を継続していく。

2 ふれあい牧場で発生した羊のロウバイ中毒疑い事例

(中央家畜保健衛生所 春山 優唯)

ロウバイ (*Chimonanthus praecox*) はロウバイ科の落葉低木種で、種子等はアルカロイドであるカリカンチンを含み、動物が摂取すると神経症状を呈する。今回、国内で初めて羊のロウバイ中毒を疑う事例が発生したため、報告する。

平成28年8月30日、羊(コリデール種)を13頭飼養するふれあい牧場で、放牧中の羊2頭(4歳、雌)が起立不能、四肢伸長を呈したため、翌日鑑定殺を実施した。

外貌検査では、2頭ともに四肢の硬直・伸長、呼吸促迫がみられた。剖検では、1頭の第一胃内容物に小豆大の黒色の種子が15個みられ、2頭ともに胃内容物濾過物に黒色種子片が多数散見された。胃内容中に確認された種子については、遺伝子検査で、ロウバイと同定された。血液生化学検査ではALP、LDH、AST、 γ -GTP、CPK、総ビリルビン濃度の上昇及びカルシウム濃度の低下が認められた。病理組織学的検査では、諸臓器に著変は認められなかった。また、細菌及びウイルス学的検査でも、有意な所見は得られなかった。

カリカンチンは、GABA阻害作用により、強直性痙攣や脊髄反射の亢進を誘起するが、これは本症例の臨床症状と合致し、血液生化学検査の結果は筋収縮や神経過分極の影響と考えられた。また、発症前日、台風が本県を通過したため、立入り時、放牧地の側道に植樹してあるロウバイの実が多数放牧地内に落下していた。更に発症羊は、群の中で社会的順位が上位であり、常に率先して放牧地内の草を採食していた。以上から、本症例は放牧地内に落下したロウバイの種子の摂取による中毒が疑われた。家畜のロウバイ中毒は、海外で数例報告があるが、羊での中毒量は明らかとなっていない。また、カリカンチンの標準品が国内に流通していないことから、今回血中濃度の測定はできなかった。

ロウバイは鑑賞用として庭や農園に栽植してあることが多いため、今後、同植物を放牧地や採草地、畜舎等の周辺に植樹しないこと、剪定枝等を家畜に与えないことを注意喚起する必要がある。

3 ヨーロッパ腐蛆病菌の特性を利用した分離手技の検討

(中央家畜保健衛生所 中井 悠華ほか)

本県では「埼玉県腐蛆病に係る検査等実施指針」(県指針)を定め、蜜蜂飼育届を提出した全戸を対象として、家畜伝染病予防法第五条に基づく腐蛆病の定期検査を実施している。

平成29年5月に、ヨーロッパ腐蛆病(EFB)を疑う蜂群を1群確認し、県指針及び病性鑑定指針に基づき、病性鑑定を実施した。補助的検査では、腐蛆の塗抹標本においてグラム陽性球菌が多数確認され、腐蛆からEFB菌特異遺伝子が検出された。以上の結果から、当該蜂群は自衛処分された。しかし、続けて実施した細菌分離培養では、EFBの二次感染菌である腸球菌が優位に発育し、EFB菌は分離できなかった。そこで、EFB菌が乾燥に強い特性を利用し、検体の塗抹標本を1ヵ月間、室温約20~35℃の検査室で保管し、十分に乾燥させた後、滅菌生理食塩水に再懸濁して分離培養を実施したところ、EFB菌(遺伝子型CC3・ST3)が純培養状に分離された。以上から、当該蜂群をEFBと診断した。

本事例を踏まえ、同一検体を使用して二つの試験を計画した。まず、乾燥期間短縮を目的として、乾燥期間を1・3・7・10・14・21日に設定した試験を実施した。また、EFB菌は、腸球菌を含む様々な菌に対して強い抗菌活性を示すローヤルゼリーに抵抗性を有することが近年の研究で明らかとなってきている。そこで、検体をKSBHIブロスと等量混合し、各濃度(0・6.25・12.5・25・50・75%)のローヤルゼリーと24時間感作させた後、分離培養を行う試験を実施した。その結果、検体を乾燥3日以上またはローヤルゼリー濃度25%以上の条件下で前処理し、分離培養を実施する手法が二次感染菌の抑制に有効であった。

現場では、検体が二次感染菌に汚染されていることが想定され、本法は腐蛆病の迅速・的確な診断に有用である。今後は異なる二次感染菌や遺伝子型に対する本法の有効性について検討が必要である。

《埼玉県獣医師会長賞》

受賞した4題の講演要旨は次のとおりです。

1 口蹄疫疑い例通報時の病性鑑定担当初動体制の強化

(中央家畜保健衛生所 平野 晃司)

中央家畜保健衛生所病性鑑定担当は、口蹄疫を疑う異常家畜を発見した旨の届出を受けた際、直ちに農場に出向き、異常家畜の病変部の撮影、必要な採材及び検査機関への検体搬入を行う役割を担っている(以下、初動対応)。本県では、「口蹄疫に関する特定家畜伝染病防疫指針」、「口蹄疫発生時現地防疫作業マニュアル」に基づき、初動対応を実施するが、詳細は定められていない。そこで、「病性鑑定担当初動対応マニュアル(以下、初動マニュアル)」と移動式簡易枠場を整備し、農場で演習することで、経験年数の少ない職員や女性職員を問わず、あらゆる畜舎構造や飼育状況、または夜間の通報においても、迅速で確実な対応のできる初動体制を強化したので報告する。

初動マニュアルは、作業項目チェックリストと本文で構成し、共に初動対応の実施内容を時系列に列記した。作業項目チェックリストは、全項目に実施状況を確認する責務を担う作業確認者のチェック欄を設けたほか、作業内容の詳細を記した本文の掲載場所を付記した。作業項目は、他機関への連絡、対応の不備・失念の防止に重点を置いた82項目で構成した。本文には、長年の防疫演習で培ってきた経験を多く活かし、夜間対応時の照明装置、病変部の写真撮影・送付時の機材の設定方法、各病変部の模範写真、送付写真整理表等を、画像や図表を利用して分かりやすく本文に掲載した。移動式簡易枠場は、建材を利用し、当所保有のトラックに収容可能な寸法で、さらに女性職員でも対応可能な保定労力の軽減、鮮明な写真撮影及び迅速な病変採材に特化した設計で作製し、整備した。そして、年4回の演習の中で、整備した初動マニュアル及び

移動式簡易枠場の検証と実地訓練を行い、検討を重ね、完成度を高めた。

初動マニュアルの段階的な実行、移動式簡易枠場の整備及び演習の実施により、緊急性が高い危機管理業務を「いつでも」、「誰でも」、「何処でも」、「確実に」に遂行する体制を構築した。今後も課題を発見次第、検討を重ね、有事の際の準備をしていきたい。

2 住民との直接対話による環境問題解消事例

(熊谷家畜保健衛生所 石田 扇子ほか)

管内A養鶏場は、数万羽以上の飼養規模の農場を複数所有している。そのうちの一農場（鶏舎10棟、10万羽以上飼養）において、平成18年頃から、毎年春と秋のハエの発生と悪臭について近隣の住民Bから行政機関へ相談が継続していた。

A養鶏場は、行政機関の指導の元、ハエ及び悪臭発生防止のため、鶏舎及び堆肥舎でのハエ対策薬剤の使用、糞処理担当専門職員の配置等の対策を実施するとともに、平成20年頃から鶏舎を既存の開放式からウィンドレス方式に順次更新し、現在約7割が完成している。また、平成26年から平成27年にかけては、敷地内の堆肥舎2棟を改築するとともに、コンポストと脱臭装置を増設し、悪臭及びハエの拡散防止措置を講じた。これにより悪臭の発生は改善されたが、ハエの発生は完全には改善されなかったため、住民Bからの行政機関への相談は継続していた。それまで、A養鶏場に対しては、相手が住民Bであることは本人の希望により明らかにされていなかったが、平成28年10月、相手先が住民Bであることを説明したところ、A養鶏場が住民Bを初めて認識するとともに住民Bを訪問し、特にハエの発生などの状況を直接確認した。

この結果、鶏舎の除糞間隔の短縮、臭気低減効果のある飼料添加物の使用などを新たに実施するとともに、従来の環境対策を一層強化した。その後も、A養鶏場は住民Bを訪問し、実施している対策の説明とその効果を両者で確認した。

平成29年5月の家保立入時には住民Bのハエの被害が大幅に減少し、9月以降もハエはほとんど見られず、取組みが有効に機能していることを確認した。現在ではA養鶏場は定期的に住民Bを訪問し、良好な関係を継続している。

今回の事例では、畜産農家と近隣住民が直接対話することで、農家側が被害を実感し理解を深めた結果、具体的対策が実施され、環境問題が解消した。

畜産農家が環境問題に対応するには、家畜排せつ物の適正処理などの取組みだけでなく近隣住民との十分なコミュニケーションが必要である。行政機関も環境問題対応の際には、両者の橋渡しとしての役割が重要であると考えられる。

3 県内で検出された大きな欠損があるマレック病ウイルスmeq遺伝子

(中央家畜保健衛生所 曾田 泰史)

マレック病ウイルス（MDV）は鶏にリンパ腫を発症させるが、その病原性は株により異なる。MDVの病原性にはmeq遺伝子が関与しており、病原性に応じた遺伝子多型が報告されている。今回、本県でマレック病（MD）と診断されたシャモから検出されたMDVのmeq遺伝子に関する調査概要を報告する。

愛玩用にシャモ50羽を飼養する農家で、平成28年8月に約150日齢のシャモ1羽が死亡し、病性鑑定を実施した結果、MDと診断された。ワクチン接種歴はなかった。本例の肝臓、脾臓、腎臓を検体として、PCRでmeq遺伝子を検出、その塩基配列を解析し、コードする蛋白質（Meq蛋白質）のアミノ酸配列を分析した。併せて、鶏腎臓細胞を用いたウイルス分離を実施した。

全ての検体で一般的なmeq遺伝子（583 bp）よりも低分子（約400 bp）の増幅産物が認められた。塩基配列解析の結果、増幅産物がmeq遺伝子であることが確認され、一般的なmeq遺伝子と比較して192 merの欠損を認めた。アミノ酸配列分析では、本例では一般的なMeq蛋白質における170～210番目のアミノ酸が欠損していた。ウイルス分離は陰性であった。

これまでに、meq遺伝子の一部欠損は実験室内継代MDV株でのみ検出されていたが、近年、国内外で野鶏やシャモのMD野外症例から検出されている。これらはShort (S) -meqと呼ばれているが、本例で検出されたmeq遺伝子はS-meqよりもさらに69 merが欠損しており、このような大きな欠損は野外症例では過去に報告がない。Meq蛋白質は細胞の腫瘍化に関与するが、本例の欠損部位は、Meq蛋白質の機能を調節する領域の一部であり、その機能に何らかの変化があったと考えられる。しかし、meq遺伝子の一部欠損によるMeq蛋白質の機能変化や病原性への影響は解明されていない。MDVの病原性解析には生体へのウイルス接種が必須であるが、現在のところ、野外症例からS-meq MDVは分離されておらず、その病原性は不明である。本例でもウイルスが分離されておらず、病原性の検討には至っていない。今後、本例を含めて、更なる調査が求められる。

4 スメア及びVER値を用いた鈍性発情母豚活用技術の開発

（農業技術研究センター 瀧沢 慶太ほか）

母豚の発情徴候は、おもに外陰部の腫脹・発赤や乗駕許容・背圧などの外貌所見により確認されるが、暑熱ストレス等の影響で発情徴候を示さない無発情豚が出現してくる。無発情豚の中には鈍性発情豚が存在するが、これらの卵巣の働きは正常で、人工授精を行うことで繁殖に供することができる。無発情豚のうち3割が鈍性発情豚であると報告されており、これらを繁殖に活用する技術を開発することは養豚経営の上で重要である。

そこで今回我々は膣内電気抵抗値（以下、VER値）及び膣垢（以下、スメア）標本を用いた鈍性発情豚鑑別方法の確立を目指した。

離乳後母豚を用いてスメアの採取・観察およびVER値測定を離乳後3～7日目まで行った。排卵日の確認は直腸検査による卵巣触診を実施した。スメアは膣鏡と牛用頸管粘液採取器を用いて外子宮口から採取し、遠心分離処理後に塗抹標本を作製し、ヘマカラー染色により白血球（リンパ球、好中球単核、好中球分葉核）と上皮細胞（I、II、III、IV、無核角化）の出現比率を調査した。さらに長期間鈍性発情を呈する母豚4頭を用いてVER値とスメア所見を指標に繁殖供用が可能か検討を行った。

その結果、正常豚及び鈍性発情豚はVER値が一旦低下した後に再上昇することが明らかとなり、無発情豚では変化が認められなかった。VER値再上昇後のスメア標本所見においては白血球出現率が正常発情豚で53.4%、鈍性発情豚で47.1%、無発情豚で7.2%と差が認められた。このVER値及びスメア所見結果から鈍性発情豚と無発情豚の区別が可能となり、鈍性発情豚を繁殖供用することができることとなる。鈍性発情豚を用いた繁殖供用試験において2頭で受胎・分娩が確認され、2頭は現在妊娠鑑定を待機中である。

今後はより現場に即した手技を開発し、実用可能な技術に発展させていく。

予 告

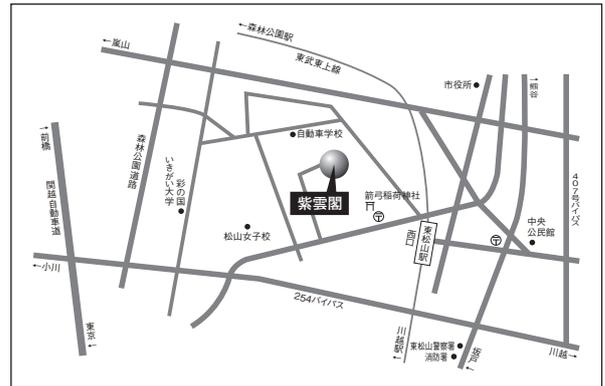
西支部学術講習会のお知らせ

(獣医師生涯研修事業ポイント対象 カリキュラム番号 小2(4) 小3(10))

西支部長 別部 博司
学術委員 佐藤 博司

西支部では、平成30年2月25日(日)に金園農一先生(どうぶつの総合病院 埼玉動物医療センター)をお招きして、『抗てんかん薬の使用法・てんかん重積への対処』の演題で学術講習を行います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

- 日 時 平成30年2月25日(日)
13:30~16:30(13:00~受付)
- 場 所 東松山市 ホテル紫雲閣
東松山市箭弓町2-5-14
TEL 0493-23-5151
- 演 題 「抗てんかん薬の使用法・
てんかん重積への対処」
- 講 師 どうぶつの総合病院/埼玉動物医療センター
金園 農一 先生
- 参加費 埼玉県獣医師会会員 無料
会員以外の受講者 5,000円



さいたま市支部学術講習会のお知らせ

(獣医師生涯教育研修事業ポイント対象 カリキュラム番号 小2(1) 小3(9))

さいたま市支部長 山中 利之寛
学術委員 土谷 寛

さいたま市支部では、第1回、第2回に分けて、DVMsどうぶつ診療センター横浜 二次診療センター 整形外科医長・リハビリテーション部部長 小林 聡 先生にご講演をお願いいたしました。

第2回目は、平成30年3月4日(日)「視診・触診からの整形外科疾患へのアプローチ 後肢編」というタイトルでご講演いただきます。

第1回目の前肢編に引き続き、日常臨床で出会うことが多い整形外科疾患の後肢部分にフォーカスし、歩行動画、検査の基本となる触診動画を交え、どのように診断・治療を行なっていくかのセミナーを実施していただきます。

たくさんの方のご参加をお待ちしております。

- 日 時 平成30年3月4日(日)
13:30~17:00
- 場 所 大宮ソニックシティ 905会議室
さいたま市大宮区桜木町1-7-5
TEL 048-647-4111
- 演 題 「視診・触診からの整形外科疾患への
アプローチ 後肢編」
- 講 師 DVMsどうぶつ診療センター横浜
二次診療センター
整形外科医長・リハビリテーション部部長
小林 聡 先生
- 参加費 埼玉県獣医師会会員 無料
会員以外の受講者 5,000円



南支部学術講習会のお知らせ

(獣医師生涯研修事業ポイント対象 カリキュラム番号 小2(1))

南支部長 田中 裕
学術委員 大野 潤

南支部では、3月25日(日)に学術講習会を開催します。
講師の先生は、どうぶつの総合病院 画像診断科 主任 米国画像診断専門医 福田 祥子先生をお招きいたします。テーマは「腹部超音波検査(主要臓器の読影)」です。
多くの先生方のご参加をお待ちしております。

- 日 時** 平成30年3月25日(日)
14:00 ~17:00 (受付13:30~)
- 場 所** 大宮ソニックシティビル 905会議室
さいたま市大宮区桜木町1-7-5
TEL 048-647-4111
- 演 題** 「腹部超音波検査(主要臓器の読影)」
- 講 師** どうぶつの総合病院 画像診断科
主任 米国画像診断専門医
福田 祥子 先生
- 参加費** 埼玉県獣医師会会員 無料
会員外の受講者 5,000円



広告



大切な方への贈り物に……
最高品質のハム・ウインナーをどうぞ



欧州国際食品コンテスト 19年連続金メダル受賞



サイポルクム

株式会社 埼玉種畜牧場
フリーダイヤル 0120-1129-22

**獣医師
募集中**

新 入 会 員



いとう やすな
伊藤 康那

団体支部

勤務部会

支 部 名	氏 名	診療所所在地・名称
団 体	伊 藤 康 那	川口市・どうぶつの総合病院

ひ ろ ば

南支部学術講習会開催報告

南支部長 田中 裕
学術委員 大野 潤

南支部では、12月17日（日）に大宮ソニックシティにて学術講習会を開催いたしました。

講師として、日本獣医生命科学大学 獣医保険看護学科臨床部門 皆上 大吾先生（准教授・獣医学博士）をお招きし、「腫瘍外科のベーシックを学ぶ」というテーマでご講演いただきました。

がん治療の方針を決定する上での臨床ステージ分類や、その中での外科手術や放射線療法、化学療法の役割、麻酔リスクの評価など実際に手術を計画する前に、目的を明確にする重要性を解説していただきました。

また、腫瘍外科療法の種類を実際に経験された症例を例に、それぞれの手術におけるポイントをわかりやすくご説明頂きました。各々の腫瘍におけるサージカルマージンの選定や病理医へマージンを正確に伝えるための方法について、さらに先生の専門分野である臨床病理学の豊富な知識に基づいた、所属リンパ節の取り扱い方など非常に内容の濃い講習会となりました。

皆上先生には、貴重なお時間をいただき、実際の症例を例に多くの術中写真を用いて非常にわかりやすくご講演頂き、感謝いたします。また、お忙しいなか多くの先生方にお集まりいただきありがとうございます。

次回の学術講習会は、2018年3月25日（日）に米国画像診断専門医の福田祥子先生にお願いしております。多くの先生方の参加をお待ちしております。

<参加者内訳>

出席者	さいたま市支部	南支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
40名	7名	21名	1名	1名	3名	7名	0名

お知らせ

29日獣発第287号
平成30年1月10日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内勇夫
(公印及び契印の押印は省略)

獣医師法第8条第2項に該当する獣医師の処分について

このことについて、平成29年12月26日付け29消安第3015号-2をもって、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長から別添のとおり通知がありました。

このたびの通知は、獣医師法第8条第2項の規定に基づく処分が平成29年11月17日付けで行われ、公表されたことを踏まえ、獣医師が社会的信頼に十分に込えられるよう、獣医師倫理の指導に一層の協力を求める旨、通知されたものです。

ついては、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

※別添通知省略

プレスリリース

平成29年12月26日
農林水産省

獣医師法第8条第2項の規定に基づく「獣医師の業務停止処分」について

農林水産大臣は、獣医師2名に対し、獣医師法に基づく業務停止の処分を行いました。

行政処分内容等

農林水産大臣は、以下の獣医師2名に対し、獣医師法に基づく業務停止の処分を行いました。

(1) 榊明彦（北海道在住、62歳）

- ・行政処分の内容：平成29年11月27日から1年10月の業務停止処分
- ・事件の概要：馬2頭に向け猟銃を発射し、よって同馬を死亡させた。
- ・司法処分の内容：懲役1年〔執行猶予4年〕（銃砲刀剣類所持等取締法違反及び動物の愛護及び管理に関する法律違反）

(2) 久井崇範（岡山県在住、51歳）

- ・行政処分の内容：平成29年11月27日から1年の業務停止処分
- ・事件の概要：酒気を帯びた状態で自動車を運転するとともに、自動車運転上の注意義務に違反し、よって人に傷害を負わせた。
- ・司法処分の内容：懲役1年4月〔執行猶予3年〕（道路交通法違反及び自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律違反）

【お問合せ先】

消費・安全局水産安全管理課
担当者：獣医事班 珠玖、加藤
代表：03-3502-8111（内線4530）
ダイヤルイン：03-3501-4094
FAX番号：03-3502-8275

29日獣発第288号
平成30年1月10日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内 勇夫
(公印及び契印の押印は省略)

牛に使用するガミスロマイシン製剤のリスク管理措置について（通知）

このことについて、平成29年12月26日付け29消安第4836号をもって、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長から別添のとおり通知がありました。

このたびの通知は、牛に使用するガミスロマイシン製剤の承認に当たるリスク評価を食品安全委員会が行った結果、ハザードとして特定されたカンピロバクターの薬剤耐性菌のリスクの推定区分が低度と判断されたことを踏まえ、適正使用確保等のリスク管理措置を徹底すべく関係者への通知を依頼されたものです。

については、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

29消安第4836号
平成29年12月26日

公益社団法人日本獣医師会会長 殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長

牛に使用するガミスロマイシン製剤のリスク管理措置について（通知）

抗菌剤が効かなくなる薬剤耐性の問題については、昨年4月に5年間で実施すべき対策を取りまとめた「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」（平成28年4月5日国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議決定）に基づき、ヒト、動物等の垣根を越えた取組を推進していくこととしております。

畜産分野において、抗菌剤は、家畜の健康を守り、安全な食品の安定的な供給のために重要な資材ですが、抗菌剤の不適切な使用により発生する薬剤耐性菌が人の医療や獣医療に与える影響のリスクについても十分考慮する必要があります。

このため、当省が動物用医薬品として抗菌剤の承認を行う際には、食品安全委員会に薬剤耐性菌の食品を介した人の健康への影響に関するリスク評価を依頼し、食品安全委員会のリスク評価結果に基づきリスク管理措置を策定・実施しており、具体的には「動物用抗菌性物質製剤のリスク管理措置策定指針」

(平成23年11月30日薬事・食品衛生審議会薬事分科会動物用医薬品等部会了承) 及び「畜産物生産における動物用抗菌性物質製剤の慎重使用に関する基本的な考え方」(平成25年12月24日付け25消安第4467号畜水産安全管理課長通知)において、その考え方を取りまとめています。

今般、牛に使用するガミスロマイシン製剤(以下「ガミスロマイシン製剤」という。)の承認に当たり、食品安全委員会がリスク評価を行い、ハザードとして特定されたカンピロバクターの薬剤耐性菌のリスクの推定区分は低度であり、適正使用確保等のリスク管理措置の徹底が必要とされました。

ガミスロマイシン製剤については、人の医療上も極めて重要な15員環マクロライド系抗菌剤であることから、人の医療上重要な抗菌剤の薬剤耐性率を低く抑えるため、慎重使用を徹底する必要があります。

つきましては、獣医師や生産者をはじめとする関係者に対しては、下記の取組の徹底について指導をお願いします。

記

- (1) 第一次選択薬が無効の場合にのみ、ガミスロマイシン製剤の使用を検討すること。
- (2) 治療対象となる細菌の薬剤感受性試験を行い、ガミスロマイシン製剤に対する感受性を確認すること。
- (3) 承認された用法・用量や効能・効果に基づき、必要最小限の期間の投与とすること。
- (4) 投与後一定期間内に治療効果を判定し、効果が見られない場合には、獣医師の判断により使用する薬剤を変更すること。

事務連絡
平成30年1月10日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
専務理事 境 政 人

動物用医薬品等取締規則及び動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に 関する省令の一部を改正する省令の制定について

このことについて、平成29年12月26日付け事務連絡をもって、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課事業審査管理班長から、別添のとおり通知がありました。

このたびの通知は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条第1項の規定により読み替えて適用される同法第36条の4第1項の規定に基づき、動物用医薬品等取締規則及び動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令の一部を改正する省令が平成29年12月26日に交付・施行され、ガミスロマイシンを有効成分とする製剤について「動物用医薬品使用対象動物」、「用法及び用量」並びに「使用禁止期間」を設定する旨本会に連絡されたものです。

つきましては、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

※別添通知省略

保政第1399-7号
平成30年1月15日

公益社団法人 埼玉県獣医師会
会長 高橋 三男 様

埼玉県保健医療部長 本多 麻夫
(公印省略)

コリネバクテリウム・ウルセランスによる ジフテリア様症状を呈する感染症患者に関する情報について（通知）

本県の感染症対策の推進につきましては、日頃格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

標記について、平成30年1月10日付で厚生労働省健康局結核感染症課から別添のとおり通知がありましたので、お知らせいたします。

今般、国立感染症研究所における研究結果により、本感染症の事例が集積したことから、別添のとおりQ&Aが更新されました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、貴会会員へ周知いただきますようお願いいたします。

なお、別添の通知は、県ホームページ内の下記ページからダウンロード可能です。

また、本件については、県保健所に対して別途通知したことを申し添えます。

記

厚生労働省等からの通知（感染症・予防接種関連）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0701/kansen/kourousyou/tuuti29.html>

担 当：保健医療政策課

感染症・新型インフルエンザ対策担当 中島

電 話：048-830-3557

F A X：048-830-4808

※別添Q&A省略

別添健感発 0110 第 2 号
平成 30 年 1 月 10 日各

都道府県
政令市
特別区

 衛生主管部（局）長 殿厚生労働省健康局結核感染症課長
(公 印 省 略)コリネバクテリウム・ウルセランスによるジフテリア様症状を呈する
感染症患者に関する情報について

コリネバクテリウム・ウルセランスによるジフテリア様症状を呈した患者に対する対応については、平成 14 年 11 月 20 日付け健感発 1120001 号及び平成 21 年 7 月 22 日付け健感発 0722 第 3 号厚生労働省健康局結核感染症課長通知により、知見の紹介とともに、コリネバクテリウム・ウルセランスによる感染症（以下、「本感染症」という。）の発生に係る情報提供を依頼したところです。

今般、国立感染症研究所における研究結果により、本感染症の事例が集積したことから、別添のとおり Q & A を更新しましたので、ご了知願いますとともに、関係者への周知方を願います。

本感染症については、感染症法に定められたものではありませんが、引き続き当課への情報提供をお願いするとともに、医療関係者や住民の方への周知、感染予防に係る措置、原因の究明について、特段の配慮いただきますようお願いいたします。

また、治療や診断について医師または獣医師から相談があった際には積極的に協力していただくとともに、動物からの感染が強く疑われる感染症ですので、本感染症を把握した際には、医師及び獣医師と連携し、原因究明のための調査等の対応に協力いただきますようお願いいたします。

なお、本感染症の治療にあたっては、ジフテリア抗毒素の使用も選択肢の一つとされています。仮に、本感染症の治療に際してジフテリア抗毒素の使用（承認を受けている効能・効果以外の使用）が必要と医師により判断された場合には、国有ジフテリア抗毒素（成人用沈降ジフテリアトキソイド）の提供が可能であることを申し添えます。

本件については、公益社団法人日本医師会及び公益社団法人日本獣医師会にも周知していることを申し添えます。

29日獣発第302号

平成30年1月24日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫

(公印及び契印の押印は省略)

香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認に伴う監視体制の強化について

このことについて、平成30年1月11日付け29消安第5209号をもって、農林水産省消費・安全局長から別添のとおり通知がありました。

このたびの通知は、香川県内の飼養農場において死亡した家きんを対象に高病原性鳥インフルエンザ遺伝子検査を実施したところ、H5亜型であることが確認され、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針に基づき、当該死亡家きんについて高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜とし、都道府県知事に対しウイルスの人・車両又は野鳥を含む野生動物を介した農場内及び家きん舎内への侵入防止対策につき、指導又は助言を実施するよう通知されたものです。

つきましては、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

※別添省略

29日獣発第303号

平成30年1月24日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫

(公印及び契印の押印は省略)

高病原性鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等について

このことについて、「高病原性鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等について」(平成30年1月11日付け29消安第5205号、29食産第4297号、29食産第4301号、29食産第4302号、29食産第4300号、29生畜第962号)をもって、農林水産省消費・安全局動物衛生課長、食料産業局企画課長、食文化・市場開拓課長、食品流通課長、食品製造課長、生産局畜産部食肉鶏卵課長の連名で別添のとおり通知がありました。

このたびの通知は、香川県下の家きん飼養農家において高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されたことを踏まえ、家きんの肉及び卵の安全性に関する消費者、流通業者及び製造業者への正確な情報提供を目的とするものです。

つきましては、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

※別添省略

山梨県獣医師会からの情報提供です。
 山梨県獣医師会が考案し、取扱いをしています。
 お問い合わせは (公社)山梨県獣医師会事務局 TEL055-226-3505までお願いします。

災害時 ペット簡易避難ゲージ

山梨県災害派遣獣医療チームVMA T指定

備蓄に便利
コンパクト収納

災害発生から
3ヶ月間使用可

汚れに強い
耐水加工

ゲージ内温度
保温・保冷
効果あり

処分簡単
ダンボール製



通気性抜群！
空気穴つき

内開き扉で
脱走防止

噛み付きに強い
ネットつき

安心して同行避難していただくために…

災害発生時、避難所に設置するペット用ゲージです。

避難所に備えておけば、ペットと一緒に同じ避難所に避難できます。

ペットを連れて避難してきた被災者も、ほかの被災者を気にせず安心して避難できます。

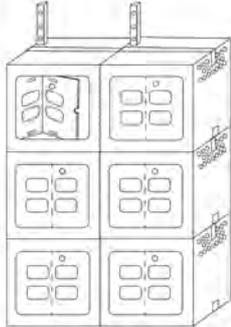


災害が発生してから避難所に物資が届き、生活環境が整い始めるまでおよそ3ヶ月かかります。避難所での3ヶ月間を少しでも快適に、清潔に過ごせるよう生まれたのが「災害時ペット簡易避難ゲージ」です。ゲージ本体は汚れに強い耐水性のダンボールを使用しています。ゲージ内に敷くパットはプラスチック製で掃除が簡単にでき、取替えも可能なので清潔にお使いいただけます。ペットシートを敷いても汚れを気にせずお使いいただけます。避難場所の環境が整っていることでペットも飼い主様も安心して避難することができます。



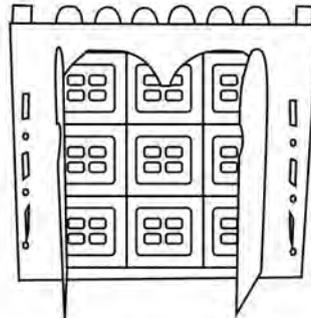
状況に応じてさまざまな使い方ができます。

連結できます



付属のマジックテープを貼り付けて連結できます。さらに空気口付きの紙管を差し込んでゲージ同士のずれの防止と換気をすることができます。(紙管はオプションです。)

ハウス(別売)でユニットも作れます



ゲージ(小)を最大9個まで収納できます。



扉は内開きなのでペットの脱走を防止します。



ハウスにゲージを設置すれば飼い主様とペットがコミュニケーションをとることができます。ペットの怪我の手当てや看病をする場合も便利です。

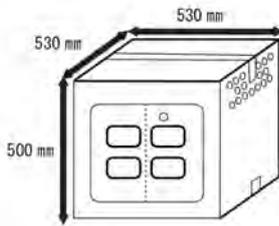


プラスチックハットつきなので、ペットシートを敷いても簡単にお掃除ができます。

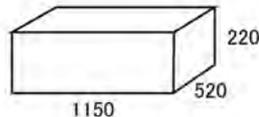
ゲージ【小】

小型・中型犬用(猫~柴犬)

販売価格：6,000円
(1セット3組入)組あたり2,000円
※別途送料が発生します。



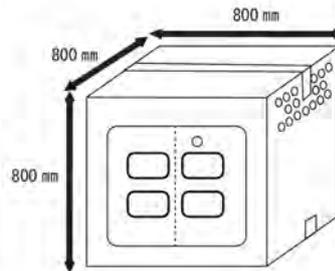
保管時折りたたみサイズ(mm)



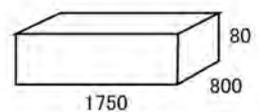
ゲージ【大】

大型犬用(レトリバー)

販売価格：3,500円
(1セット1組入)
※別途送料が発生します。



保管時折りたたみサイズ(mm)



セット内容(1組あたり)

- ・本体
 - ・扉・補強枠
 - ・敷ハット(ダンボール)
 - ・敷ハット(プラスチックダンボール)
 - ・お名前ラベル/ガムテープ
 - ・マジックテープ(連結用)
- ※【小】は1セット3組入

組み立て簡単! 3ステップで完成します。

- ① 本体を組み立て、底をテープで留めます。
- ② 扉と補強枠を本体に入れます。
- ③ 天面をテープで留め、扉を開いて底ハットを2枚入れます。



使用可能期間の目安はおおよそ3ヶ月間です。
保管期限(耐水加工の効果)は5年間です。

切り抜きニュース

飼い犬無登録で略式起訴 数十年前から複数放し飼い、 かみつキ事件も

熊谷区検（埼玉県熊谷市）は25日、飼い犬の登録を自治体に申請しなかったとして、狂犬病予防法違反の罪で、同市の農業男性（68）を略式起訴した。

熊谷署によると、男性は数十年前から複数の犬を放し飼いにしており、6月にはうち1匹が小学生の男女2人を含む計5人にかみつキ事件があった。男性が同法違反容疑で逮捕された後、飼い犬は動物愛護団体に引き渡されたという。

起訴状によると昨年1～5月、雑種犬6匹を飼い始めたのに、所有者としての登録をしなかったなどとしている。

平成29年12月25日 産経新聞

猫インフルNYで流行 人に感染の恐れも

米国で昨冬、鳥インフルエンザの一種が米ニューヨークのネコ500匹に感染するなど大流行し、ウイルスが人や他の哺乳類にもうつりやすいタイプに変化したとみられるとの研究結果を、東京大の河岡義裕教授らのチームがまとめた。

チームによると、ニューヨークで2016年12月から、保護施設にいたネコの間にはせきや鼻水などの症状が流行した。治療にあたった獣医師も感染した。これまでネコに特有のウイルスは知られておらず、大流行したのは初めてだったという。

詳しく調べた結果、H7N2型の鳥インフルエンザウイルスから変化したネコインフルエンザウイルスが検出された。

通常、鳥インフルエンザは哺乳類に感染しにくいですが、このウイルスは哺乳類のフェレットで接触感染した。さらにネコ同士では飛沫感染をすることが分かった。一方、感染しても重い症状はなく、

タミフルなど既存の治療薬も効き目があった。

平成29年12月25日 産経新聞

14歳少年、狂犬病から生還 世界で極めてまれーブラジル

【サンパウロ時事】ブラジル北部のアマゾナス州は9日、バルセロス市在住の14歳の少年が狂犬病から生還したと発表した。発病した人の生存は極めてまれで、ブラジルでは2例目。

少年は、兄と妹が狂犬病で死亡した直後の昨年12月2日、手のしびれを訴えて入院。狂犬病を発病したコウモリにかまれたとみられ、医師団は患者を昏睡（こんすい）状態にして抗ウイルス剤を投与する「ミルウォーキー・プロトコル」で治療に当たった。

父親は、記者会見で「息子はまだ弱っているが、最悪の状況は脱した」と説明。医師団は「症状をすぐに把握し、迅速に入院させたことが良かった」と述べた。

犬やコウモリなど哺乳類から人に感染する狂犬病は、発病するとほぼ確実に死亡。世界では毎年約5万人が命を落としている。

平成30年1月11日 時事通信

人獣共通「コリネバクテリウム・ウルセランス感染症」で国内初の死亡例 福岡の60代女性

犬や猫などから人間にうつるとされる人獣共通感染症「コリネバクテリウム・ウルセランス感染症」による死者が国内で初めて確認されていたことが14日、厚生労働省への取材で分かった。厚生労働省は今月、自治体などに向けて通知を出し、情報提供を行った。

コリネバクテリウム・ウルセランス感染症は、家畜やペットの動物が持つ「コリネバクテリウム・ウルセランス菌」に感染することで起きる。のどの痛みやせきなど風邪の症状が出て、重症化すると呼吸困難などで死亡することもある。人から人

にうつることはほとんどない。予防接種の効果で日本ではほとんど患者がいない感染症「ジフテリア」に似ており、抗菌薬などで治療が可能だ。

厚労省によると、この感染症で死亡したのは福岡県の60代の女性で、平成28年5月に呼吸困難で救急搬送され3日後に死亡。血液などから菌が検出された。女性は3匹の猫に屋外で餌をやっていたといい、そこからの感染が疑われている。

国立感染症研究所によると、この感染症は国内では13年に初めて感染例が報告され、29年11月末までに、死亡した女性を含め北海道から九州まで25人の感染が報告されている。犬や猫を飼っていたり、接触があったりする患者がほとんどだ。英国など海外でも数十例が報告されており、死者も出ている。

ただ、国内では感染症法に基づく届け出義務がない珍しい感染症のため、見逃されている可能性もある。厚労省は今年、日本医師会、日本獣医師会、自治体に対して情報提供を行い、発生があった場合は厚労省に情報提供するよう通知。国民に対しても、「ペットとの濃厚な接触は避け、体調が悪くなったらすぐに医療機関に行ってほしい」と注意を呼びかけている。

平成30年1月15日 産経新聞

東京都内で発見のオオタカから 高病原性鳥インフル

東京都は17日、大田区内で死んでいるのが見つかった野鳥のオオタカ1羽から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N6亜型）が検出されたと発表した。都によると、都内の野鳥から高病原性鳥インフルが確認されたのは昨年のオナガガモに続き2例目。死骸は5日に見つかり、鳥インフルエンザウイルスの陽性反応が出ていたため、詳しく検査していた。

都は感染拡大防止に向けて野鳥の監視を強化するほか、都内の養鶏農家などに情報提供を進める。また、上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、葛西臨海水族園の都立の4動物園で、鳥類

の展示を一部中止する。

平成30年1月17日 産経新聞

鳥インフルエンザ 9万羽、県が焼却終了 ペール缶110トン、さぬき市内外で／香川

さぬき市の農場で高病原性鳥インフルエンザウイルスを持つ鶏が見つかった問題で、県は22日、殺処分した約9万1000羽の焼却をすべて終えた。今後、近隣農場を含めて新たな発生がなければ、30日にも3～10キロ圏の搬出制限区域、2月5日にも3キロ圏の移動制限区域を解除する。

焼却作業は15日、香川東部溶融クリーンセンター（さぬき市）で始まり、その後、高松市や坂出市、琴平町にある一般廃棄物処分場も加わった。家庭ごみなどの一般廃棄物に、鶏を入れたプラスチック製ペール缶を10%を上限に混入させて燃やした。

県畜産課によると、22日午前11時26分、最後のペール缶が炉へ投入された。焼却されたペール缶は計4609缶、投入重量は計110.8トンに及んだ。内訳は、香川東部溶融クリーンセンター29.6トン▽高松市西部クリーンセンター50.86トン▽角山（つのやま）環境センター（坂出市）10.42トン▽仲善クリーンセンター（琴平町）19.92トン。

消毒と検査実施

県防疫マニュアルでは、搬出制限区域の解除までに農場を1週間おきに3回消毒する。今回は21日に2回目の消毒が実施された。25日ごろからは3キロ圏の農場で飼育されている鶏について、高病原性鳥インフルエンザウイルスや過去に感染したことを示す抗体の有無を検査する。問題がなければ、農林水産省と協議した上で県が搬出制限区域を解除する。

浜田恵造知事は22日の定例記者会見で「処理場のある市町や住民の方には協力いただき感謝している。気を緩めるわけにはいかないが、市場に流通している食鶏は安全ということをアピールしていきたい」と述べた。

【植松晃一】

平成30年1月23日 毎日新聞

平成29年度埼玉県獣医師会学術広報版

(平成30年1月20日現在)

年月日	産業動物	小動物	公衆衛生
平成29年4月			
5月			
6月16日(金)～18日(日)	第94回日本獣医麻酔外科学会／第106回日本獣医循環器学会／第61回日本獣医画像診断学会 2017春季合同学会(さいたま市 大宮ソニックシティ)		
6月25日(日)		北支部 「犬猫の止血異常の診断と治療」 日本大学 亘 敏広 先生 (熊谷市 ホテルシティーフィールドかごはら)	
7月17日(祝・月)		東支部 「犬のリンパ腫2017」 日本小動物がんセンター 小林 哲也 先生 (久喜市 久喜総合文化会館)	
8月			
9月10日(日)	平成29年度 関東・東京合同地区獣医師大会(東京) 獣医学術関東・東京合同地区学会 (東京都千代田区 都市センターホテル)		
9月24日(日)		南支部 「犬の慢性腎臓病 管理の実際」 日本獣医生命科学大学 宮川 優一 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	
10月1日(日)		東支部 「肝臓疾患の診断を極める！」 どうぶつの総合病院 浅川 翠 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
10月20日(金)	北支部・しゃくなげ会 「教育現場における産業動物診療について」 麻布大学 佐藤 礼一郎 先生 (熊谷市 埼玉県熊谷家畜保健衛生所)		
10月22日(日)		西支部 「呼吸器疾患の診断と治療」 日本獣医生命科学大学 藤田 道郎 先生 (川越市 川越南文化会館)	
11月19日(日)		東支部 「神経病学を究める！」 どうぶつの総合病院／埼玉動物医療センター 金園 晨一 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
12月17日(日)		南支部 「腫瘍外科の考え方」 日本獣医生命科学大学 皆上 大吾 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	
12月22日(金)	農林支部 平成29年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会 (さいたま市 埼玉会館)		
平成30年1月21日(日)		さいたま市支部 「視診・触診からの整形外科疾患へのアプローチ 前肢編」 DVMsどうぶつ診療センター横浜 小林聡 先生 (さいたま市 WithYouさいたま)	
1月23日(日)			衛生支部 健康福祉研究発表会 (さいたま市 県健康センター)
1月28日(日)		西支部 「皮膚科治療アップデート」 犬と猫の皮膚科 村山 信雄 先生 (川越市 川越南文化会館)	
2月4日(日)		北支部 「小動物の腫瘍について」 日本小動物がんセンター 小林 哲也 先生 (深谷市 深谷市男女共同参画推進センター)	
2月10日(土)～12日(月・祝)	平成29年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会(大分) (別部国際コンベンションセンター)		
2月21日(水)			衛生支部 食肉衛生技術研修会 (さいたま市 県食肉衛生検査センター)
2月25日(日)		西支部 「抗てんかん薬の使用法・てんかん重積への対処」 どうぶつの総合病院／埼玉動物医療センター 金園 晨一 先生 (東松山市 ホテル紫雲閣)	
3月4日(日)		さいたま市支部 「視診・触診からの整形外科疾患へのアプローチ 後肢編」 DVMsどうぶつ診療センター横浜 小林聡 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	
3月25日(日)		南支部 「腹部超音波検査(主要臓器の読影)」 どうぶつの総合病院 福田 祥子 先生 (さいたま市 大宮ソニックシティ)	

事務局メモ

ホームページ会員専用ページ 入室は URL <http://www.saitama-vmc.org/>
ID：SVMA（半角・大文字） パスワード：MITSUO（半角・大文字）

- | | | |
|-----------|---|---|
| 12月17日 | 南支部学術講習会（さいたま市 大宮ソニックシティ） | 市 別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ） |
| 12月22日 | 平成29年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会（さいたま市 埼玉会館） | 2月15日 家畜人工授精優良技術発表会全国大会（東京都港区 ヤクルトホール） |
| 平成30年 | | 2月16日～18日 第14回日本獣医内科学アカデミー学術大会（神奈川県横浜市 パシフィコ横浜） |
| 1月4日 | 仕事始め | 2月18日 関東・東京合同地区獣医師会理事会（東京都千代田区 都市センターホテル） |
| 1月5日 | 豊かな埼玉をつくる県民の集い（さいたま市 パレスホテル大宮） | 2月20日 文部科学省委託事業成果報告会（東京都中央区 A P 東京） |
| 1月14日 | 南支部新年会（東京都豊島区 Esola 池袋） | 2月21日 集合狂犬病予防注射資材売買契約会（さいたま市 埼玉県農業共済会館） |
| 1月14日 | 北支部研修会・新年会（深谷市 グランドホテル深谷） | 2月25日 西支部学術講習会（東松山市 ホテル紫雲閣） |
| 1月15日 | 知事と農林水産業団体長との懇談会（さいたま市 知事公館） | 2月28日 文部科学省委託事業中間報告会（A P 東京 東京都中央区） |
| 1月21日 | さいたま市支部学術講習会（さいたま市 WithYouさいたま） | 3月4日 さいたま市支部学術講習会（さいたま市 大宮ソニックシティ） |
| 1月26日 | 損害評価課会家畜共済部会（さいたま市 埼玉県農業共済会館） | 3月8日 埼玉県畜産会役員会（熊谷市 ホテルヘリテイジ） |
| 1月28日 | 西支部学術講習会（川越市 川越文化会館） | 3月11日 埼玉県獣医師会ボウリング大会（さいたま市 スポーツ浦和国際ボウル） |
| 1月31日 | 平成29年度埼玉県狂犬病予防協会研修会（桶川市 さいたま文学館） | 3月23日 平成29年度学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校卒業式（さいたま市 パレスホテル大宮） |
| 2月2日 | 所得税確定申告・相続等個別相談会（さいたま市 埼玉県農業共済会館） | 3月25日 南支部学術講習会（さいたま市 大宮ソニックシティ） |
| 2月2日 | 埼玉県農業技術研究センター試験研究成果発表会（熊谷市 埼玉県農業大学校） | 3月26日 埼玉県オーエスキー病防疫協議会（さいたま市 埼玉会館） |
| 2月3日 | 埼玉県医師会（創立70周年記念）新年会（さいたま市 パレスホテル大宮） | 6月22日 第75回日本獣医師会通常総会（東京都港区 明治記念館） |
| 2月4日 | 北支部学術講習会（深谷市 深谷市男女共同参画推進センター） | 9月9日 平成30年度関東・東京合同地区獣医師大会（茨城）、獣医学術関東・東京合同地区学会（茨城県つくば市 つくば国際会議場） |
| 2月4日 | 日本獣医師会小動物臨床講習会（東京都中野区 中野サンプラザ） | 11月30日 平成30年度全国獣医師会会長会議（東京都千代田区 パレスホテル東京） |
| 2月6日 | 家畜伝染病等危機管理対策強化講習会（東京都千代田区 TKP御茶ノ水カンファレンスセンター） | 12月1日 2018動物感謝デー in JAPAN（東京都世田谷区 駒沢オリンピック公園） |
| 2月10日 | 日本獣医師連盟通常総会（大分市 レンブラントホテル大分） | |
| 2月10日～12日 | 平成29年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（大分）（大分県別府 | |

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。

今年も雲ひとつない晴天に恵まれ、ご来光とともにすばらしい元旦が迎えられた。元日の毎日新聞には、拉致問題が15年も膠着状態のなか、北朝鮮から2016年に韓国に亡命した政府高官が拉致問題の解決と引き換えに日本から100億円規模の巨額な資金援助を望んでいると言う報道があった。国家犯罪には無条件で被害者の帰国、真相究明、実行犯の引き渡しが必要の条件である。勝手に拉致しておいて何十年も見知らぬ国に生活させておいて金をくれれば返す！はないだろう。小泉首相時代の拉致被害者の帰国のときの状況はどうだったのだろうか？金が動いていたとしても今とは全く世界情勢が違う、まして何度も国連決議をしているので日本だけ勝手に動けない。せつかくの長期政権なのだから何とかならないのか？そして、安倍首相は電磁波を使って敵国の防空網や指揮通信システムを無力化するステルス攻撃機の追加購入を検討していると言う。また、トランプ大統領は小型戦術核の研究をするよう指示したようだ。大丈夫か？日本は踊らされているような気がする。一筋の光は平昌五輪か？そこからでも解決の糸口が見えたらいい。是非平穏な一年であって欲しい。

昨年、12月22日には平成29年度家畜保健衛生業績発表会が開催された。高橋会長も助言講師として各演題に適切な助言をするとともに、埼玉県代表に選出された3題以外の優秀な4題を県獣医師会長賞として選出し、その功績を称えました。

今年は昨年のような突然の国会の解散による混乱？はなさそうだが、本県では19首長、7市町議会議員選挙が予定されている。本会の獣医師連盟では候補者や会員から推薦の依頼があれば、国会議員をはじめとして知事、県議会議員

や地方自治体の首長や議員に至るまで、出来得る限り高橋理事長と当該地域の理事や会員が推薦状を届けている。この様な地道な努力があるからこそ、県や地方自治体との狂犬病予防を始めとする様々な県獣医師会の事業が円滑に進められてゆくのである。この活動を支えている埼玉県獣医師連盟の会費は全て開業会員の拠出によるものである。しかし、日本獣医師連盟に収めている会費は勤務会員も含めたすべての会員数に応じた額となっている。その活動には公務員獣医師の待遇改善なども含まれていることを勤務会員の方にも是非再認識していただきたい。

東京都大田区でオオタカの死体から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された。鳥根県に続き全国で8例目だそうだ。環境省は、死体が回収された場所から周辺10km圏内を「野鳥監視重点区域」として監視を強化しているが、自然界で自由に飛びまわっている行動範囲の広い猛禽類である、なんとしても養鶏場へのウイルスの侵入を防がなければならない。

しかし、その後、香川県の肉用鶏約5万羽を飼養する農場で高病原性鳥インフルエンザが発生してしまった。派遣された自衛隊も含めた関係者の尽力により、疫学関連農場を合わせた約9万羽の殺処分が約20時間で終了した。分離されたウイルスはH5N6亜型で、昨シーズン8道県で167万羽の家禽が殺処分されたものと同じ亜型であり、今後続発がないことを願うばかりである。

高橋会長がかねがね言っている「学術の埼玉」を裏付けるように、会報には各支部から講習会の開催が案内されています。また、2月は10日～12日に別府で日本獣医師会の年次大会が、16～18日には横浜で日本獣医内科学アカデミー学術大会が開催されます。会員の皆様には奮ってご参加下さい。
(不動)

広告



大切な愛犬、
飼い主の皆様、
社会のために



動物用医薬品 劇要指示 <狂犬病組織培養不活化ワクチン>

狂犬病TCワクチン“化血研”

製造販売  **化血研** 一般財団法人 化学及血清療法研究所 本所 ☎(096)345-6505(営業直通)
熊本市北区大窪一丁目6番1号 〒860-8568 東京営業所 ☎(03)3443-0177

広告

一秒でも早く、
痒みから解き放つ。

繰り返す“痒み-搔破-炎症”の悪循環を断ち切り、
犬が犬らしく暮らせる毎日を取り戻すために。
より早く、より安全に、痒みや皮膚炎を管理できる時代を
アポキル錠がリードします。



○即効性

アポキル錠は犬のアレルギー性皮膚炎の痒みに4時間以内に効果を発現し、
経ロプレドニゾン投与群と同等の即効性を示しました*。
*出典: Vet Dermatol, 25,512-519,2014

○安全性

アポキル錠の高い忍容性が、痒みの長期管理を可能とします。

○革新的な作用機序

オクラシニブは、選択的ヤヌスキナーゼ阻害作用により、
炎症と痒みを惹起するサイトカインの細胞内シグナル伝達を抑制します。

犬用 アトピー性皮膚炎治療剤/
アレルギー性皮膚炎抗搔痒剤

アポキル錠

(オクラシニブマレイン酸塩)



ゾエティス・ジャパン株式会社 〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7 C01209

FOR ANIMALS. FOR HEALTH. FOR YOU.





日本獣医師会・獣医師会活動指針

－ 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領－獣医師の誓い－95年宣言－」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとその責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WSC）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

松研の動物用生物学的製剤



こわい狂犬病から
ほくをまもってね

■ 松研狂犬病 TC ワクチン

動物用医薬品 要指示医薬品

豚用ワクチン

- 松研豚丹毒生ワクチン
- ポーシリス APP-N
- ポーシリス ERY
- ポーシリス STREPSUIS
- ポーシリス Begonia DF・10
- ポーシリス Begonia DF・50

水産用ワクチン

- Mバック レンサ 注
- Mバックイニエ
- 松研Mバック IPレンサ

家畜用抗毒素

- 破傷風血清

※豚用ワクチンは要指示医薬品です。

研究開発元 一般財団法人 松岡科学研究所
製造販売元 松研薬品工業株式会社



〒184-0003 東京都小金井市緑町5丁目19番21号
TEL: (042) 381-0075 FAX: (042) 381-0344
URL: <http://www32.ocn.ne.jp/~matsuken>
E-mail: matsuken@cf.mbn.or.jp

皮膚・被毛 腸内環境 抗酸化成分

胃腸と皮膚が気になる犬に



ドクタークレド
Dr. CREDO No.1
成犬用 総合栄養食 1kg・3kg

抗酸化成分 心臓・腎臓 活力の維持

血流と健康が気になる犬に



ドクタークレド
Dr. CREDO No.2
中・高齢犬用 総合栄養食 1kg

国産品 小分けパック 毛玉対応

下部尿路が気になる成猫に



ドクターイデア
Dr. IDEA No.1
成猫用 総合栄養食 150g×6入